

清き新年 清き馬

上賀茂神社

あけまして、おめでどうござい
ます。

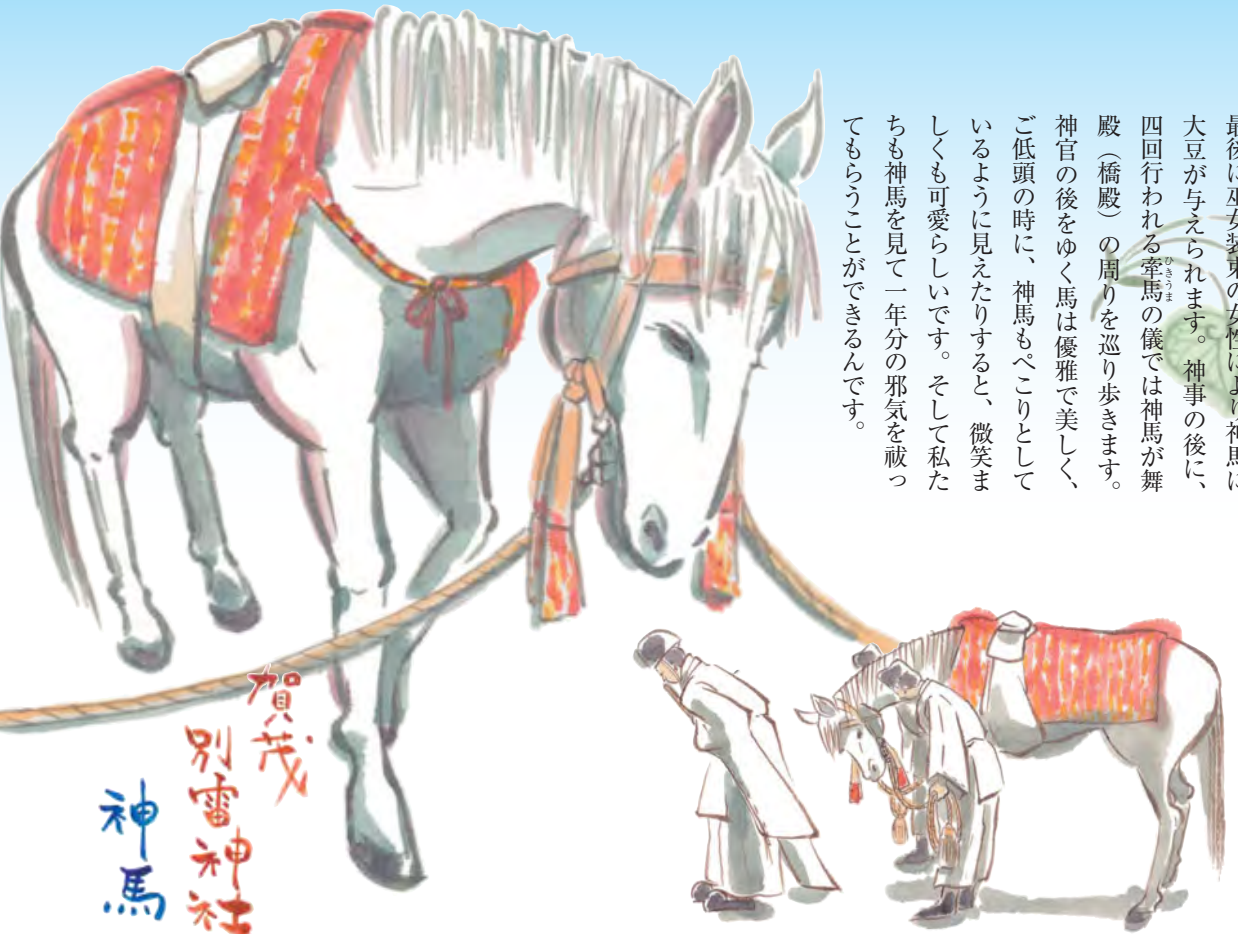
新年、氏神さまにご挨拶して、
お雑煮に、お屠蘇、おせち料理を頂
いて、初夢は見たのかしら、なんて
思っていると、お正月休みなんて
あつという間ですね。そんななか、
年があらたまつて間もないうちに歩
いておきたい参道があります。

賀茂川からの冷たい風に肩をす
くめ、御菌橋を渡り、上賀茂神社の
一の鳥居に立つと、芝生に挟まれた
白砂の参道が二の鳥居まで真っ直ぐ
に続いています。高い空に視界は開
け、風を受けて進むと少し勇ましい
気持ちにもなり、ここを一歩ずつ踏
みしめて歩くことが私にとりまして
は、新年にふさわしく思うのです。

ここ上賀茂神社は、下鴨神社の
御祭神、加茂玉依比売命の子、賀茂
別雷大神をお祀りしている神社で正
式名は賀茂別雷神社といひます。

境内は緑豊かで、御手洗川と御
物忌川が合わさった、ならの小川が
せせらいで、そこここに水の気配が
あり清らかさを保っています。

そんな神社に清き馬がいます。
名は神山号。神山とは賀茂別雷大
神が降臨された神体山と同じ名前
です。まさに神さまが降りてこられる
場所を名に持つ神馬なのです。神馬
とは神さまだけが乗ることのできる
馬。他の神社でも馬の像はよく見か
けますが、生きた神馬がいるところ
は珍しいと思います。このお馬さん、
目曜や祝日、祭礼の時などのお天気



賀茂
別雷神社
神馬



が良い日に、二の鳥居の手前の神馬
舎に行くことができて、優しそ
うな風貌とつぶらな瞳は多くの参拝
者の心を和ませています。

平安時代、天皇が年の初めに紫
宸殿にて白馬をご覧になった後、宴
を催す「白馬節会」という行事があ
りました。これは中国の故事に倣っ
たものだそうです。春は青陽の気、
馬は陽の獣、青は春の色、岡は萬物
の始まり、七は七曜の数というところ
から、春に岡に上り、青馬を七疋
見ると、年中の邪気を祓い除く、と



そしてこの日は、五節句の一つ、
人日で、七草粥の日です。境内に建
てられた天幕の中では厄除七草粥
に、上賀茂の名物すぎき漬けが添え
られて振る舞われています。

この時期は本殿中門の頭上に、
おめでたい宝船や楼門に懸けられた
邪気を祓う真新しい卯杖などを拝見
でき、至る所で良き気持ちにさせて
いただけるのも楽しみの一つです。

神山号がいる日は神馬舎でお守
りを売っています。神馬鬣守といっ
て、鬣を模した白い房になったお守
りです。馬の鬣には目には見えない
ものを感じ、除ける力があり、邪気
を退け福を招くそうです。私は携帯
電話にこのお守りを付けていて随分
お世話になってます。



あらたまつて参道を歩き、神馬
を見て一年分の災厄を祓ってもら
い、お守りも新調し、清々しい年の
始まりです。

宮中だけの儀式がやがて神事と
なり、今では一月七日、上賀茂神社
にて「白馬奏覧神事」として執り行
われています。この一年の無事を祈
る儀式は、神前に七草粥をお供えし、
祝詞を奏した後、神馬を曳き立て、

〈こばやし ゆきえ〉
京都・下鴨生まれ。大学
で日本画を学び、卒業後
は本、雑誌、広告、新聞、
TVCMなど幅広く絵に
関わる仕事に携わる。著
書に「京都でのんびり 私
の好きな散歩みち」、「京
都をてくてく私が気ままに
歩くみち」、「京都のいち
ねん わたしの春夏秋冬」
がある。